

平成28年度第6回南丹市社会教育委員会 会議録

日時 平成28年11月25日（金）午後3時00分～午後5時00分

場所 南丹市市役所 第2号庁舎 3階 301会議室

会議出席者（順不動、敬称略）

社会教育委員 三觜宏孝、清水範子、中野愛子、北村友子、富田陽子、小南 仁、
岡島賢峰

市教育委員会 岸本教育次長、後藤教育参事、寺田社会教育課長、
浅田課長補佐、森社会教育主事、大塚係長、奈木野主事

傍聴人数 3名

1. 開会 司会（事務局）

2. あいさつ 中野代表

3. 協議事項 園部公民館・八木公民館の今後の在り方について

—公民館3案検討資料策定の現状報告—

A B C案について業者に依頼し、その中間報告を前回させていただいた。今回はそれについてご意見をいただいたものを踏まえ、対応可能な内容を盛り込んだ案を説明する。答申に向けこれまでのキーワード的なものを含め説明した後、答申について報告したい。3案を説明するが、あくまで検討資料である。

C案（新設した場合）

ホールを充実させたものとなり3階建てとなる。500席のホールに加え、研修施設、音響・空調設備、トイレのバリアフリーなど含めたものとなっている。工期は3年の予定。しかし用地は未定である。

B案（八木公民館 機能集約）

八木公民館の機能を八木支所3階に集約した場合、文化ホールは計算上202席を確保できるが、天井が低く劇場型はできにくい。フラットで椅子を並べる形となる。空調関係・防水関係の改修も進めつつ機能集約を図っていく。工事期間は設計・建築で約14か月。概算見積りでは公民館の解体費も含め2億7千万円の工費となる。

A案（八木公民館 耐震補強）

耐震化のための壁の一部設置や、屋根の補強が必要である。またトイレのバリアフリー化・洋式化・防水加工など大規模改修も含んでおり、それにより30年40年利用に耐え得るとのこと。設計・工期含め約18か月かかる。工費は約3億4千万円の見積りが出ている。

B案（園部公民館 機能集約）

1階のイベントホールを演者・スタッフの導線を作るなかで席数は284席が限界となる見込み。併せて劇場型は厳しいとの判断となっている。フラットで、椅子を並べることになる。レストランについては料理室に改修する。また、2階は研修室会議室を防音仕様に、また80人規模の会議室に改修する。3階の会議室を100人規模の会議室にし、特別室は来賓用の施設にする。六花亭は託児スペースへの改修案となっている。

つづいて、国際交流会館付近に園部公民館と同等の500席規模のホール棟を設置する案について、設計等で約28か月、工費は24億9千万円の見立てとなっている。ただし、市役所の駐車場に建設する案なので70台程度の駐車スペースがつぶれてしまう。

A案（園部公民館 耐震補強）

当初はホールのステージ部分に補強壁ができ、ステージの一部を防ぐようになっていたが、業者で検討したところ壁を厚くすることで横に出る部分を短くすることができるかもしれないとのこと。また、中間報告時の案は演者の導線に不具合が出ていたが、今回の案は現施設外側に通路を追加し作るものとした。ただし、この案は、耐震強度検査に関して、耐震判定機関が了承するかどうかは、現在のところ未定である。もちろん、トイレ・空調設備等の大規模改修も含んでいる。設計・工期ともで18か月、工費は6億2千万円が見込まれている。

次にこれまでの園部公民館の経過も尊重し、一部施設を残した案も作成していただいた。業者と検討したところ、IS値の低いホール部分・エントランス部分を取り壊し、新築した案である。研修棟に新たに500席のホール棟を接続したものであるが、新ホール棟により堀や駐車場が一部つぶれることになる。500席にこだわらなければ、どの程度か判らないが、一定の縮小はできるとのこと。工期は18か月で工費は約20数億円程度と見込まれる。

各委員のご意見をもとに作成した案は以上となっている。最後に、答申策定に向けたキーワードとして、「地域住民の交流や絆を深める地域コミュニティ形成の場」「生涯学習の拠点」であり、「長い積み重ねの歴史による公民館」への思い入れが強い。時代の移り変わりや様々なニーズに対応する機能の充実については、「安全安心」や「長寿命化・バリアフリー」「快適さ」である。「人と人とのつながりの場の醸成」「集客率・稼働率の向上」の視

点から人を呼びこむ条件整備については、ハード面だけでなく規制緩和のようなものが必要ではないかのご意見も出された。また「市民ホールの機能の充実」が特に意見が出されており、これらを集約して業者に依頼して提案させていただいた内容である。何かご質問ご意見、答申のイメージも出していただきながらご協議いただきたい。

主な質疑・意見

- ホールの機能集約について、自然災害時において市民ホール・公民館が避難先になるので、その部分も考慮されているのか。
- そのことについて、「時代の移り変わりなど様々なニーズに対応」で含んでいるととらえれば含んでいるのでは。
- 市役所の駐車場にホール棟を建設する案について、新庁舎建築との調整はつくのか。
→庁舎については、現在検討中であり、総合教育会議において新庁舎についての一定の方向性が出ていると考えられるので、それも踏まえて決定される。最終的に総合的に判断される。
- 早い者勝ちではなく、出た案を総合的に判断されるとのことだが、この案は現実的に難しいと感じる。
- 基本的なことだが、この答申の「結びにあたり」は、これまで議論してきたことで、皆さん関心を示されることと思う。上手くまとめられているが、「答申」としては、具体的な方向をここに入れるのではなく、こういう漠然とした表現で、新庁舎建築をかんがみ、総合教育会議での決定となるので、あくまで「答申」としてならこれでよいのでは。
- それに関連して、社会教育活動の視点から「現行ホールと同規模の…」とあるので、国際交流会館のホールはだめだ、と表現しているようにみられるので、ところどころに入れながらの文章にしたほうがよいのではないか。
- 今まで何回も会議をした、我々の思いとしてこの案でいかしてほしいというのをどこかに入れてほしい。何のために会議をしてきたのか、との思いがある。
- 社会教育委員会としての答えを出すべきでないか。財政負担については市で考えるべきであり、「こうなりました」というのは示すべきでは。
- これまでの議論がなんだったというのもわかる。文言として入れ込むのに、他との関連性があれば、ここでの議論の何かが残るようにすれば。最終的には総合教育会議となるので、社会教育委員会ではこうだったと、一定どこかにあれば、教育委員会で心にとどめていただくなど、あったほうが良いのではないか。
- 総合教育会議において社会教育委員会の意見があげられると思うが、「答申」の「長い積み重ねの歴史の思い入れがある」との、園部公民館の存続をわかって、との意味合いがあり、「現行ホールの規模と同規模」を500席の維持をくみ取ってください、でよいのか、そうでなく歴史的にあるのは園部公民館です、との言葉に変えてしまうほうがよいのか、どちらかの選択だと思う。あいまいな表現にしたほうがよいのか。

→あいまいな表現よりも具体的なことを書くのか、相談いただきたい。これまで協議いただいた具体的なことはここに表現すべきだと思う。ここに付記させていただきたい。

- 委員の思いをちりばめた「答申」により総合教育会議においてその思い入れを推測してほしいということであれば、もう少し「これからの役割…」の中でも両公民館への思い入れを力強く表現するとか、「500席ホールが必要だ」「公民館のホールを残してほしい」としたうえで、「今後文化的活動が発展していきます」ということも力強く表現すべきと思う。
- 各案について、これまで論議してきた視点からどうか、との協議をすれば、また方向としてはっきりできないが、「結びにあたり」でもう少し出した形で表現したらどうなるかとか、こういう表現はどうかとかも事務局で検討いただき、次回協議すればよいかと思う。これまで論議してきたことが「答申」に反映されているのか、との思いを持つ委員が多い。たたき台が必要と思う。

今回素案を出していただいたが、それが委員の思いを十分表わせていないかもしれないので、表現として補強していただきたいとのご意見をいただいた。それぞれ出していたご意見を次回委員会で完成させていく。これまでの議論をもとにしながら、次回に案をご提示させていただきたい。

4. 閉会 清水副代表